學者の目にもとまるが，もうその頃には鄙びた農夫の連想などとつくの昔に忘れられていて，カマヤマの意味は判らなくなつている。花戸に聞いて見ると琉球の釜山から來ましたと言う。これを書物に書くと言う順序。とかく學者は書齋的であり，花屋はいいかげんなことを言うのは今も昔も變らないらしいが，この邊が落ちではあるまいか。

オホバギボウシに對する山間の名のウルイは都會に來るとこれでは納得が行かずにウルイサウとなり，これが德川時代の歳時記（例：俳諧季寄これこれ草）等に見え，やがて本草の書にものるようになる。これもやはり同樣な human psychology の所產であろうか。

カマヤマシャウブの株を惠與され，また仙川の現地に案内された佐々木一郎氏及び津村藥草園の方々に感謝します。

○ミヤコヤブソテツ關東に現わる（倉田悟）Satoru KURATA : *Cyrtomium Yamamotoi* Tagawa from Mt. Mitsuishi, Prov Kazusa.

千葉縣三石山（海拔 281 m）は淸澄山の西北方に位し，頂上の三石觀音には日々參詣者の絕ゆる事なく，又植物採集地としても有名であり奧山春季氏も紹介の筆をとられている（本誌 21 卷 169 頁）。特に所產羊歯類については下總植物同志會の行方沼東氏が既に 15 年近くも調査を續行され，昨昭和 25 年には「三石山の羊歯植物」を發表され 88 種を數えられている。勿論其後の御研究により追加訂正する所あり，現在は 100 種を超えた目錄を用意されている。

さて筆者は本夏，行方氏及び同じく同志會の島田，木內の二氏と共にこの三石山に羊歯を探り，或はオニヒカゲワラビの大群落に快哉を叫び，或はイワヤシダの自生地にその健やかなる生育を喜び，多々獲る所あり，就中ミヤコヤブソテツ **Cyrtomium Yamamotoi Tagawa** in Acta Phytotax. Geobot. 7: 187 (1938) の自生に遭遇したのは一報の價値があろう。本羊歯は京都附近を type locality とするが關西でも稀產のものの如く兒玉，瀨戶，山中三氏の近畿地方シダ類目錄 (1950 年) には京都，三重，大阪各府縣下に一箇所宛の產地が登載されているのみである。其の他の地方では中島一男氏が九州福岡產を報告されている。

三石山附近にはヤマヤブソテツの種々なる型が豐富に見られ，ミヤコヤブソテツは之等に混つて僅かに採集出來る。10 對前後の披針形の羽片が長く漸尖した姿は一見してそれと分るが，包膜の中央に濃色部の著しい點がやはり良い特徵である。ヤマヤブソテツの羽片巾狹きもの又ヤブソテツの羽片少きものには多少ミヤコヤブソテツに近似の型も見られるが，同一視すべきではないと思う。羽片基部の形狀についてはヤマヤブソテツ，ミヤコヤブソテツ共に變化多く，更に上部羽片又特に裸葉になると楔形が顯著となり，この點による區別は難しい。